

四国生乳販連ニュース

四国四県の生産者と連合会をつなぐコミュニケーション紙

第24号

発行日／平成24年8月31日

発行所／四国生乳販売農業協同組合連合会

〒760-0023 香川県高松市寿町1丁目1番12号

編集・発行人／菊川 時彦



平成23年度決算報告を可決承認（第12回通常総会）

平成24年7月24日、香川県高松市「アルファあなぶきホール 玉藻」において第12回通常総会を開催いたしました。山下会長の主催者挨拶の後、ご来賓を代表して、農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課・本田課長補佐様、社団法人中央酪農会議管理課・寺田課長様よりご祝辞を頂いたほか、中国四国農政局生産部畜産課・平尾課長様、四国内の県庁畜産課、全農、全酪連からもご臨席を賜りました。徳島県酪農業協同組合の山下組合長が議長として選任され、議案の審議に入りました。

第1号議案「平成23年度事業報告及び剰余金処分案承認の件」（事業報告の概略・決算書は、次ページのとおり）、附帯決議案について、原案どおり可決承認されました。

山下会長挨拶要旨



我が国の経済は、欧州の金融危機、世界的な経済の停滞などの影響を受ける一方、国内では、TPP交渉への参加の是非が社会問題化し、消費税をめぐる政局が混迷するなど、内外情勢は不透明感がぬぐえない環境にある。

また市場環境は、デフレ脱却を未だ果たせない状況の中、量販店の再編により、益々寡占化が進行し、PB商品の拡充も加速するなど、牛乳乳製品をめぐる環境についても、依然として厳しいものがある。

昨年度は東日本大震災と原発事故により、多くの国民が被災され、早くも1年4か月余りが経過した。

当連合会は、被災地の仲間を支援するため、管内の酪農家に呼びかけ、ご理解とご協力のもと、義援金を取り纏め、中央酪農会議を通じて贈呈した。

しかしながら、被災地域では、今も除染作業などが十分に進んでおらず、窮地に追いやられている仲間をみると、深い憤りを感じる。

改めて、心より早期の復興を念願する。

四国の23年度の生乳生産は135,677ト（前年比97.1%）であった。

四国は全国の中でも、生乳生産基盤の弱体化が進行しており、安定販売・供給責任を全うすることが難しくなっている。

流通経費の削減のためには、生産量の確保対策などが求められるところであり、会員に配分した計画生産目標数量の達成に向けた生産対策などが極めて重要である。

ご臨席の皆様には、引き続き、四国の酪農経営の安定のために、一層のご指導・ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成23年度事業報告の概要

○生乳共販事業

生乳販売量は135,677ト、取扱計画比100.5%、前年比97.1%。用途別販売の動向は、飲用向け（学乳向け含む）前年比102.8%、はっ酵乳等向け・64.4%、飲用等向け（飲用向けとはっ酵乳等向けの合計量）・前年比98.1%。特定乳製品向け（加工向け）は7,507ト・84.9%、加工比率は、22年度の6.3%に対して5.5%と減少。その他、生クリーム向け・前年比76.8%、チーズ向け・112.9%。

生乳販売高は、144億9,681万円、計画比100.1%、前年比97.9%、これに対する1kg当り販売単価（成分加算金含む）は106円84銭7厘。

○乳価・集送乳経費の平準化

四国の手取乳価（販連プール乳価－集送乳経費＝手取乳価）は、99円61銭/kg。完全平準化を開始した21年度実績と比較し、57銭/kgの上昇。22年度比・79銭/kgの上昇。

プール乳価は、105.55銭/kg（成分加算金除く）・前年比84銭の上昇。この要因は、①有利販売のため機動的に広域需給調整等を実施、②東日本大震災の影響による特需（余乳期に飲用化が促進された）、③2年連続の猛暑の影響による生産減少及び回復の遅れ、④乳製品用途価格（生クリーム・チーズ・加工向け）の値上げ等によるもの。

四国全体の集送乳経費の実績は8億697万円、受託乳量当たり5円94銭/kgで約5銭/kgの上昇。この要因は、①1車当たりの運賃設定の地域での生産量減少に伴うkg単価の上昇、②広域需給調整実施による域外搬出量の増加、③香川中央CS施設老朽化に伴う修繕費等による。

○生乳計画生産対策

四国の目標数量は中央からの配分を受けた、140,356ト・前年実績比100.5%の設定とし、空枠の発生を極力防止するため、会員別には過去の生産動向も考慮した配分を実施。

しかし、もともと四国の生産基盤は脆弱化している上に、初任牛価格の高止まりや2年連続の猛暑の影響等が重なり、実績は135,525ト・前年比97.1%と、目標数量に対して4,831トの未達。

○生乳検査業務

平成23年度の検査料金は、従来と同様、配分検査26銭/kg、牛群検定95円/検体、依頼検査95円/検体（成分・体細胞）、200円/検体（細菌）で実施。

総検体数は185千検体（計画比95.3%）、検査料収入は約5,126万円（計画比96.9%）。

検査データの有効活用と、生乳品質確保の目的から、四国地域乳質改善共励会を実施し、優良生産者（17名）の表彰・賞金贈呈等を行った。

○牛乳消費拡大地域活動

牛乳消費喚起対策事業「MILK JAPAN」に、中央と連携して取り組んだ。また、四国域内での広い範囲での活動普及を図るため、地域活動費の一部を会員団体に助成し、一体となってイベント等の事業を展開。

○補助事業の事務の実施

加工原料乳生産者補給金の交付事務、加工原料乳等生産者経営安定対策事業、チーズ向け生乳供給安定対策事業の3つの事業を実施し、会員・農協を通じて、生産者に助成金等を交付。

○その他実施事項

①域内乳業工場の撤退に伴う集送乳実施協議、②乳質改善と需要期生産に向けた検討、③東日本大震災被災農家に対する支援（義援金の贈呈）、④理事・販売委員研修会の実施、など。

～貸借対照表～

平成24年3月31日現在

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
I 流動資産	1,615,338	I 流動負債	1,490,192
(預金)	(239,051)	(未払金等)	(1,482,871)
(未収金等)	(1,391,757)	(法人税等)	(5,809)
(貸倒引当金)	(△15,470)	(未払消費税)	(1,511)
II 固定資産	1,547	II 固定負債	25,895
(有形固定資産)	(823)	III 引当金	1,611
(無形固定資産)	(724)	負債の部合計	1,517,699
III 外部出資	3,078	IV 資本	102,264
IV 繰延資産	0	資本の部合計	102,264
資産の部合計	1,619,963	負債及び資本合計	1,619,963

～損益計算書～

平成23年4月1日～平成24年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	金 額
I 事業総利益	48,712
(事業収益)	(14,496,809)
(事業費用)	(14,453,319)
事業総利益	48,712
II 事業管理費	51,550
事業損失	2,837
III 事業外収益	140,562
IV 事業外費用	128,728
経常利益	8,995
V 特別損失	1,998
税引前当期利益	7,007
法人税等	5,809
当期剰余金	1,198
繰越剰余金	1,066
当期末処分剰余金	2,264
VI 利益準備金	1,000
次期繰越剰余金	1,264



24年度の計画生産 正式配分数量

平成24年度、全国の計画生産目標数量は、7,435千トﾝ（23年度閏年修正後実績比102.8%）、うち北海道は3,877千トﾝ（同102.7%）、都府県は3,558千トﾝ（同102.9%）となりました。

四国では、中央より配分された24年度計画生産目標数量は137,726トﾝ、前年の実績と比較すると101.6%の水準となります。内訳は、販売基準数量136,708トﾝ、特別調整乳数量907トﾝ、選択的拡大生産数量（チーズのみ）111トﾝとなっています。

2月7日に開催された第4回理事会におきまして承認決定されました、24年度四国の計画生産対策に基づき、以下のとおり正式配分を行いました。なお配分は、会員別の23年度受託実績が、四国全体の実績に占める割合で按分計算しております。

（単位：トﾝ、%）

	正式配分数量	前年実績比	23年度実績
北海道	3,876,834	102.7%	3,783,462
都府県	3,558,381	102.9%	3,465,628
全国合計	7,435,215	102.8%	7,249,090
うち 四 国	137,726	101.6%	135,525
徳 島	37,097	101.6%	36,504
香 川	35,432	101.6%	34,865
愛 媛	40,655	101.6%	40,005
高 知	24,542	101.6%	24,151

加工原料乳等生産者経営安定対策事業について

独立行政法人農畜産業振興機構より、平成23年度平均取引価格及び平成24年度補填基準価格についての通知がありました。平成24年度の生産者抛出金単価と合せて、以下のとおりお知らせいたします。

平成23年度加工原料乳平均取引価格	71.97円/kg
平成24年度加工原料乳補填基準価格	70.74円/kg
平成23年度チーズ向け生乳平均取引価格	47.23円/kg
平成24年度チーズ向け生乳補填基準価格	45.72円/kg
平成24年度生産者抛出金単価	0.25円/kg

乳価と集送乳経費の平準化実績

1 年度別の乳価平準化単価の推移

(1) 平成23年度までの動向

平成21年度より、月々の乳代の精算・支払は、四国全体の平準化単価によって実施しています。

平成23年度の累計の平準化単価は、年間平均で105円55銭/kgで、22年度と比較して84銭の上昇となりました。

	単価 (円/kg)
平成21年度	104.87
平成22年度	104.71
平成23年度	105.55
22年度と23年度の単価差	+0.84

※成分加算金を除いた単価

(2) 平成24年度7月までの動向

平成24年度の平準化支払い単価は、7月までの累計で、105円53銭/kgの実績で、前年同期と比べて1円29銭の減少です。

	単価 (円/kg)
前年同期 (23年4~7月)	106.82
平成24年度 (4~7月)	105.53
単 価 差	△1.29

※成分加算金を除いた単価

2 集送乳経費の平準化単価の実績

平成23年度の四国全体の集送乳経費は、1kg当たり5円94銭/kgとなり、22年度と比較すると5銭の上昇です。

内訳は、集乳経費が3.68円/kgで5銭/kgの上昇、送乳経費が1.92円/kgで17銭の上昇となった一方、CS経費及び広域需給調整拠点経費は0.34円/kgで、計17銭/kgの低下となっています。

なお、平成24年度の集送乳経費の平準化は、24年度の経費実績に基づき、上半期と下半期の2回実施する予定です。

平成23年度	金額 (千円)	1kg単価 (円)	22年度/単価差 (円)
集乳経費 (運賃)	499,621	3.68	+0.05
送乳経費 (運賃)	261,194	1.92	+0.17
集送乳経費 (小 計)	760,815	@5.60	+0.22
地域CS経費	48,776	0.36	+0.04
広域CS経費 (大津・応神町)	39,172	0.29	+0.10
合理化対策費	△41,792	△0.31	△0.31
(小 計)	46,156	@0.34	△0.17
合 計	806,971	@5.94	+0.05

生乳受託販売委員会の委員の変更

任期満了に伴い、本会の生乳受託販売委員が以下のとおり選任されました。なお、任期は24、25年度の2年間です。

生乳受託販売委員会委員名簿

区 分	氏 名	団 体 名
会 長	山 下 信 良	四国生乳販連 代表理事会長
連合会の理事	柳 瀬 一 範	四国生乳販連 副会長理事
連合会の理事	合 田 政 光	四国生乳販連 理事
連合会の理事	田 窪 雅 史	四国生乳販連 理事
徳島県の区域	橋 本 勝	徳島県酪農協 理事
//	正 木 孝 則	徳島県酪農協 理事
//	高 瀬 敏	徳島県酪農協 理事
香川県の区域	秋 山 博 文	香川県生乳受託販売推進協議会 議長
//	佐々木 英 樹	香川県生乳受託販売推進協議会 委員
//	赤 松 省 一	香川県生乳受託販売推進協議会 委員
愛媛県の区域	和 氣 茂 太 ※	愛媛県酪連 副会長理事
//	山 本 英 司 ※	愛媛県酪農経営者協議会 会長
//	永 市 正 明	愛媛県酪農経営者協議会 副会長
高知県の区域	岡 本 泰 明	高知県酪農連合協議会 会長
//	宮 本 文 弘	高知県酪農連合協議会 副会長
//	桑 鶴 精 二 ※	高知県酪農連合協議会 副会長

※新任委員



平成23年度乳質改善共励会を開催

日頃より、良質乳の生産にご尽力いただき、ありがとうございます。

平成23年度四国地域乳質改善共励会の表彰生産者は、下記のとおり決定いたしました。

以下に概要を紹介いたします。

1 平成23年度四国地域乳質改善共励会入賞者

最優秀賞(5名)

徳島県 瀬尾武治様 板東明様 上原晴行様
 香川県 村上正美様
 高知県 小松俊一様

優秀賞(12名)

徳島県 和田久夫様 正木孝則様 山下佳美様 高瀬敏様
 香川県 白川政幸様 川田彰一様 増川能成様 森末雅美様
 愛媛県 (有)渡辺牧場様 岩田忠義様
 高知県 小谷収様 高橋強様

※徳島県の上原様、香川県の白川様、愛媛県の岩田様、高知県の小松様は、3年連続の入賞です

※同点者発生により、優秀賞は12名となっております。

23年度配点表

項目	基準	得点
細菌数	$n \leq 1$ 万	10
	1 万 $<n \leq 3$ 万	8
	3 万 $<n \leq 5$ 万	6
	5 万 $<n \leq 7$ 万	4
	7 万 $<n \leq 9$ 万	2
	10 万 $\leq n$	0
体細胞数	$n \leq 100$ 千	10
	100 千 $<n \leq 150$ 千	8
	150 千 $<n \leq 200$ 千	6
	200 千 $<n \leq 250$ 千	4
	250 千 $<n \leq 300$ 千	2
	300 千 $<n$	0
脂肪率	3.8%以上	4
	3.7%~3.79%	
	3.6%~3.69%	
	3.59%以下	0
無脂乳固形分率	8.80%以上	4
	8.70%~8.79%	
	8.60%~8.69%	
	8.59%以下	0

審査方法

- 採点方法
 - 年度(4月~3月)を通じて生乳を出荷した生産者のバルク乳の、4月1日~3月31日までの12ヶ月間の検査成績で採点。
 - 年間の生乳検査成績36回に基づき、配点表による得点により審査。(細菌数は12回の得点に3を乗じたもの)。
- 選定の方法

規模階層別に、①250トン以下、②250トン~500トン、③500トン以上、毎に規模別の区分を行ない、それぞれ上位5名(計15名)を受賞者とする。なお、最優秀賞は、15名のうち得点上位の5名。
- 審査の対象外となる場合
 - 期間中に不合格(脂肪分3.5%以下、無脂乳固形分8.3%以下)の生乳があった生産者は採点の対象外とする。
 - 販売不可能乳、抗生物質の混入による廃棄乳等の発生についての報告が会員からあった生産者。
 - 生乳生産管理チェックシート記帳に係る不備がある旨の報告が会員からあった生産者。
- 褒賞

最優秀賞(5名): 賞状、盾、賞金10万円
 優秀賞(12名): 賞状、盾、賞金5万円

生乳の安全安心確保のための対策について

日頃より、良質乳の生産にご尽力いただき、ありがとうございます。

本年度も昨年同様、以下の項目を重点として、安全安心の確保に取り組むこととしております。会員団体・農協、酪農家の皆様、改めてご協力をよろしくお願い申し上げます。

1 生乳処理室（バルク室）の衛生管理と施錠

バルク室は大切な生乳を安全に保管するうえで、大変重要な場所です。

- ① 動物用医薬品・消毒剤等を室内に置かない
- ② 常に清潔にする（犬や猫は絶対に入れない）
- ③ 施錠できる環境を整え、関係者以外が立ち入れないようにする

2 確実な記帳・記録と保管

生乳生産管理チェックシートの記入項目は、ノートやパソコンなどの記録や、伝票などの控えなどで、項目が代替できる場合は、チェックシートに転記する必要はありません。ただし、すぐに提示できるよう整理し、8年間は確実に保管してください。

3 抗菌性物質の残留確認検査を必ず受ける

獣医師から指示を受けた休薬期間明けには、必ず残留確認検査を受け、合格したものを出荷してください。また、検査の結果は必ず記録しましょう。

4 殺菌・消毒剤は安全なものを使用する

※記帳・記録によるチェックは、①作業を確認しミスを防ぐ、②安全を証明し自分の身を守る、ためのものです。毎日、確実に行ってください。

●搾乳に使用する殺菌剤の適正使用について

平成19、21年他県において、生乳中に消毒剤の薬剤成分が検出されたため、安全が確認されるまでの間、生乳の出荷を自粛し、廃棄するという事態が発生致しました。

引き続き搾乳作業への消毒剤の不適正な使用の禁止に、細心のご注意をいただきますよう、よろしくお願い致します。



酪農教育ファーム 新規認証牧場の募集

「酪農教育ファーム」は、牧場に学校の児童生徒等を受け入れたり、出前授業等で、酪農体験（搾乳、えさやり、バター作り等）を通して、「心・いのち・食」の教育を支援している活動です。

この活動は、社団法人中央酪農会議の認証制度を取得した牧場・人が、安全衛生にも配慮して実施しています。人を安全に受け入れるための体制を整えた牧場を「認証牧場」、実際に活動を実施する人を「ファシリテーター」といいます。

認証制度を取得すると、パンフレットや教材、教育支援ツールの提供をはじめ、様々な支援を受けることができます。

近くの学校の子ども達を受け入れている牧場も多いかと思えます。子供たちに、より深い理解を即すために、また安全に受け入れる体制を整えるために、ぜひ酪農教育ファームの認証制度の取得をご検討ください。

★認証を得るための主な条件★

酪農教育ファーム 認証牧場

- 訪問者のトイレ・手洗い場を確保すること。
- 緊急医療品を一式備え、近隣の病院などの医療機関と常時連絡がとれること。
- 訪問者を対象に、施設賠償責任保険などに加入していること。
- 所定の研修会を受講したファシリテーターを指定すること。

酪農教育ファーム ファシリテーター

- 情熱をもって酪農教育ファーム活動を行う者。
- 牧場で2年以上専門的に酪農に従事する者。
- 所定の研修会を受講したもの。

★問合せ先★

四国生乳販売農業協同組合連合会 TEL:087-822-8151

※書類作成等の都合上、お早目にお問合せください。



牛乳消費喚起対策事業 MILK JAPANの取組

牛乳消費喚起対策事業「MILK JAPAN」は、「牛乳が日本を元気にする」をスローガンに、ホームページや牛乳パックの側面広告、イベントなどを中心にPR活動を続けております。

本年度から子供向けTV番組「ミルクチャポン」の全国放送が開始されましたので、ぜひご覧ください。



ミルクチャポンは、親子で楽しめる、牛乳や酪農の持つ「元気」「楽しさ」「おいしさ」などをテーマにしたアニメーション、ドキュメンタリー、音楽など数分間のショートコンテンツを重層的に組み立てた、まったく新しい”エンターテイメント子ども番組”。牛乳が飲みたくなる！番組です。

平成24年度の生乳需給をめぐる情勢（7月まで）

1. 平成24年度7月までの受託販売実績（生乳生産）の動向

（1）全国

- 7月までの累計の生産動向（受託乳量）は、北海道1,298千ト（前年比101.2%）、都府県1,213千ト（同103.9%）、全国2,511千ト（同102.5%）と、全国的に生産の回復が顕著になってきた。
- 東北において、震災の影響の反動が見られる。

（2）四国

- 7月末までの累計で、45,779ト（前年比98.2%）。
- 県別では、徳島12,439ト（同97.1%）、香川12,112ト（同101.4%）、愛媛13,336ト（同97.7%）、高知7,881ト（同95.9%）。
- 7月単月では、四国全体で10,757ト・前年比100.6%。

全国・北海道・都府県と四国の受託販売実績

（単位：ト,%）

会員団体	4月		5月		6月		7月		累計	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
北海道	316,390	100.5	330,621	101.0	322,733	101.0	328,536	102.3	1,298,280	101.2
都府県	308,973	106.1	316,276	101.8	296,424	103.4	291,441	104.6	1,213,114	103.9
全国	625,363	103.2	646,897	101.4	619,157	102.2	619,977	103.3	2,511,394	102.5
四国	11,851	96.8	12,069	97.1	11,102	98.7	10,757	100.6	45,779	98.2
徳島県	3,197	95.0	3,289	95.9	3,003	97.3	2,951	100.8	12,439	97.1
香川県	3,118	99.7	3,204	99.6	2,970	102.6	2,831	104.2	12,112	101.4
愛媛県	3,453	96.6	3,503	97.2	3,224	98.1	3,156	99.2	13,336	97.7
高知県	2,084	95.5	2,072	95.0	1,906	96.1	1,819	97.2	7,881	95.9

※四捨五入の関係上、合計値が一致していないことがあります。

※都府県・全国の前年比は、アウト・イン修正した数字です。

※四国の実績につきましては、公共分乳量が含まれていません。



2. 牛乳・乳製品等の消費動向と、四国の用途別販売実績の動向

(1) 全国の牛乳・乳製品の需給動向

- 7月の牛乳等向け処理量は、前年実績比97.3%と、再び従来の減少トレンドに近い水準。うち、牛乳が前年比100.3%、乳飲料102.8%と好調である一方、加工乳68.6%と震災以降減少傾向。はっ酵乳は112.7%と、大幅に増加し、24年1月以降10%を上回る伸び率が継続し、好調に推移。
- 生クリーム等向け105.7%、チーズ向け104.1%と、好調に推移している。
- 7月の特定乳製品向け取引数量は、前年比120.4%と大幅増加。都府県は、震災の影響等で60.0%と減少しており、今年度はその反動。実量では21・22年度に近い水準。
- 7月末の乳製品在庫量は、脱脂粉乳が3.7カ月分、バターが3.3カ月分と微増。追加輸入の実施が決定された。

(2) 四国の用途別生乳販売の動向

- 7月までの累計で、飲用等向けが42,016ト(前年比93.7%)、特定乳製品向け(加工向け)が3,012ト(前年比214.2%)。
- 用途別比率は、飲用等向け(飲用向け+はっ酵乳等向け)が91.7%、特定乳製品向け(加工向け)が6.6%。
- 前年度の震災による特需(余乳期の飲用化促進)による反動で、加工向けが大幅増となっているが、22年度同期と比較すると、88.9%の水準であり、生産減の要素を考慮しても、例年並みのトレンドによる発生量といえる。


四国の用途別生乳販売の動向

(単位：ト、%)

用途	4月		5月		6月		7月		累計		用途別比率
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
飲用向け	9,445	90.9	10,514	98.9	10,014	98.8	9,627	101.5	39,600	97.4	86.4
うち学乳向け	946	101.3	1,434	114.8	1,415	93.9	940	119.3	4,735	105.8	10.3
公共向け	12	82.3	14	86.2	14	97.4	11	93.6	51	89.5	0.1
はっ酵乳等向け	566	45.6	615	58.2	603	64.1	581	60.6	2,365	56.3	5.2
飲用等向け	10,023	86.1	11,143	95.2	10,631	95.9	10,219	97.7	42,016	93.7	91.7
特定乳製品向け	1,651	315.5	733	113.5	295	373.7	333	210.9	3,012	214.2	6.6
生クリーム向け	172	188.5	194	207.5	177	201.3	203	242.6	746	209.3	1.6
チーズ向け	17	339.1	13	221.6	13	127.2	13	212.8	56	206.9	0.1
総受託乳量	11,863	96.7	12,083	97.0	11,116	98.7	10,768	100.6	45,830	98.2	100.0



四国生乳販連・行事だより

開催月日	会議名 場所	協議内容・報告事項
4月16日	第9回生乳の安全安心の確保のための四国地域協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度の取り組み報告について ・平成24年度の取り組み内容について
サンポートホール高松5階会議室		
4月23日	第1回理事会	<ul style="list-style-type: none"> ・第12回通常総会の招集並びに付議事項の件
サンポートホール高松5階会議室		<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度生乳生産実績並びに乳価・集送乳経費等平準化の結果報告の件 ・平成24年度取引乳価の件
6月6日	監事監査	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度決算監査
四国生乳販連2階会議室		
6月17日	第2回理事会	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度事業報告及び剰余金処分案の件
アルファあなぶきホール 特別会議室		<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度決算監査報告の件 ・加工原料乳等生産者経営安定対策事業に係る拠出金単価の件 ・平成23年度四国地域乳質改善共励会の成績報告の件 ・平成23年度生乳計画生産実績並びに平成24年度生乳計画生産対策に係る目標数量配分の件 ・平成24年度生乳需給をめぐる情勢等の件
		
7月24日	第12回通常総会	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度事業報告及び剰余金処分案承認の件
アルファあなぶきホール 玉藻		<ul style="list-style-type: none"> ・附帯決議案
8月2日	第8回四国地域酪農教育ファーム推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・酪農教育ファーム活動概要について ・教育ファーム活動報告、活動計画について ・イベント支援について
サンポートホール高松5階会議室		<ul style="list-style-type: none"> ・家伝法改正に伴う酪農教育ファーム活動について